

2007

2009

各国指標

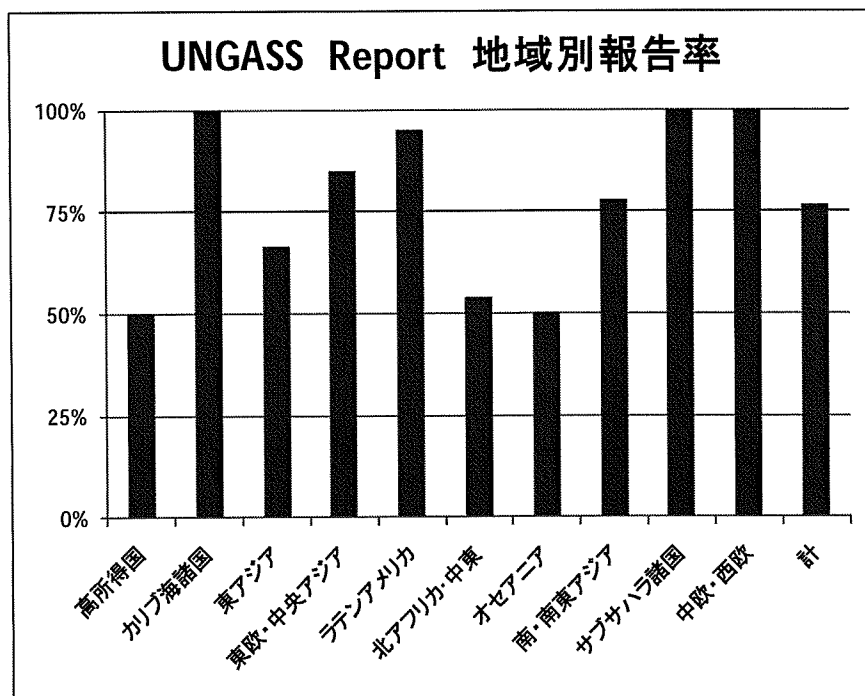
各国における取組及び活動

指標

各国における取組及び活動



図2 各国の地域別報告状況



国分類	高所得国	カリブ海諸国	東アジア	東欧・中央アジア	ラテンアメリカ	北アフリカ・中東	オセアニア	南・南東アジア	サブサハラ諸	中欧・西欧	計
報告国数	24	9	2	17	19	7	6	14	44	5	147
(%)	50.0%	100.0%	66.7%	85.0%	95.0%	53.8%	50.0%	77.8%	100.0%	100.0%	76.6%
国連加盟国数	48	9	3	20	20	13	12	18	44	5	192

図3

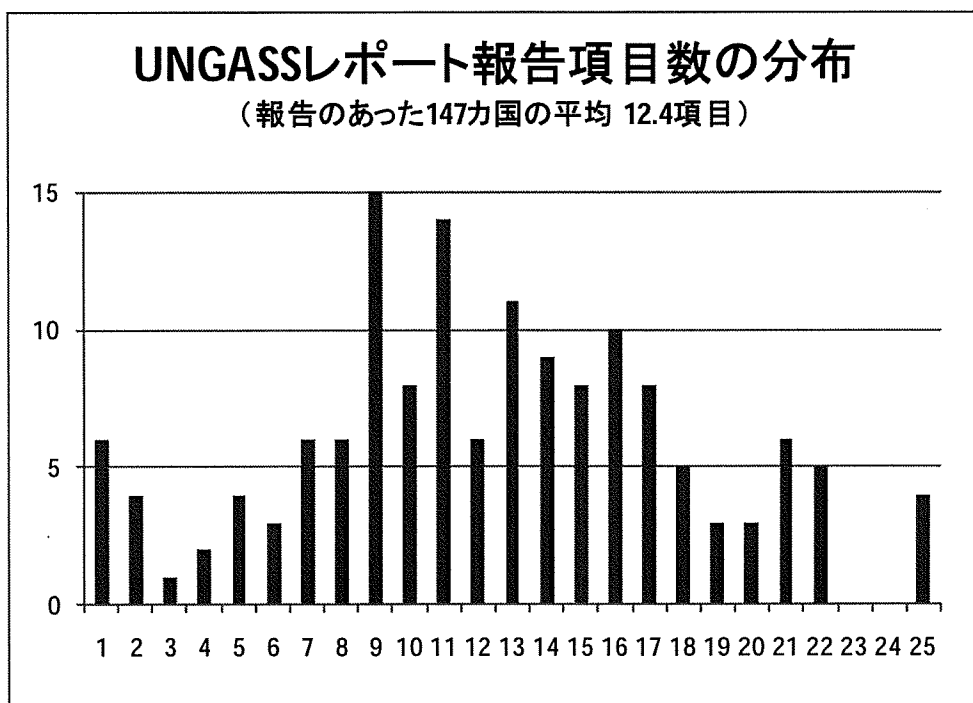
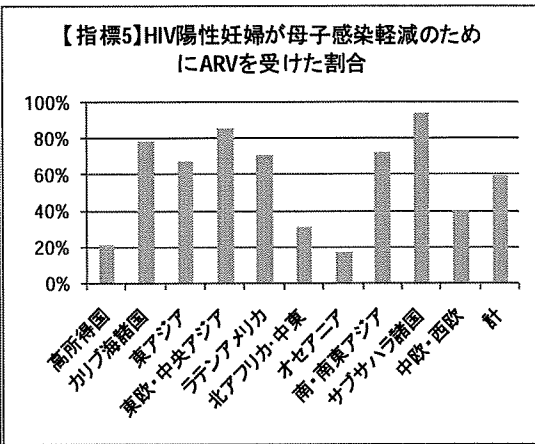
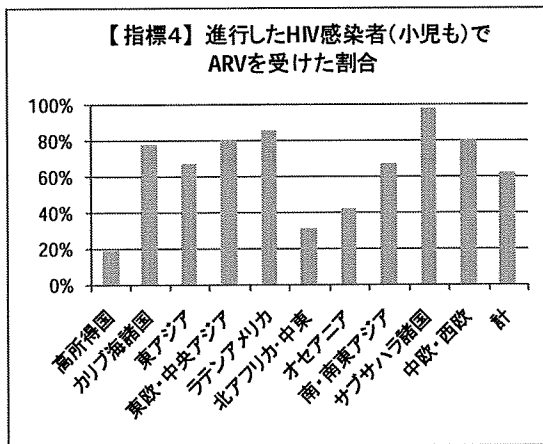
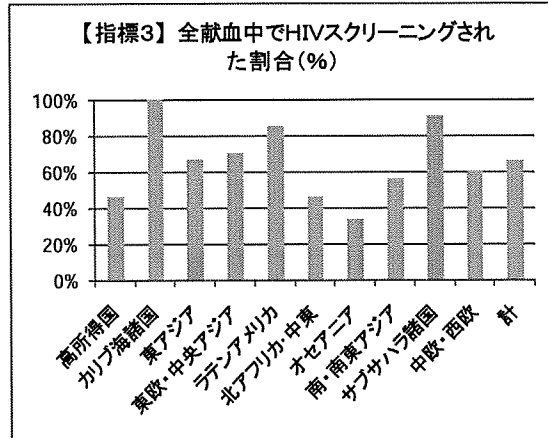
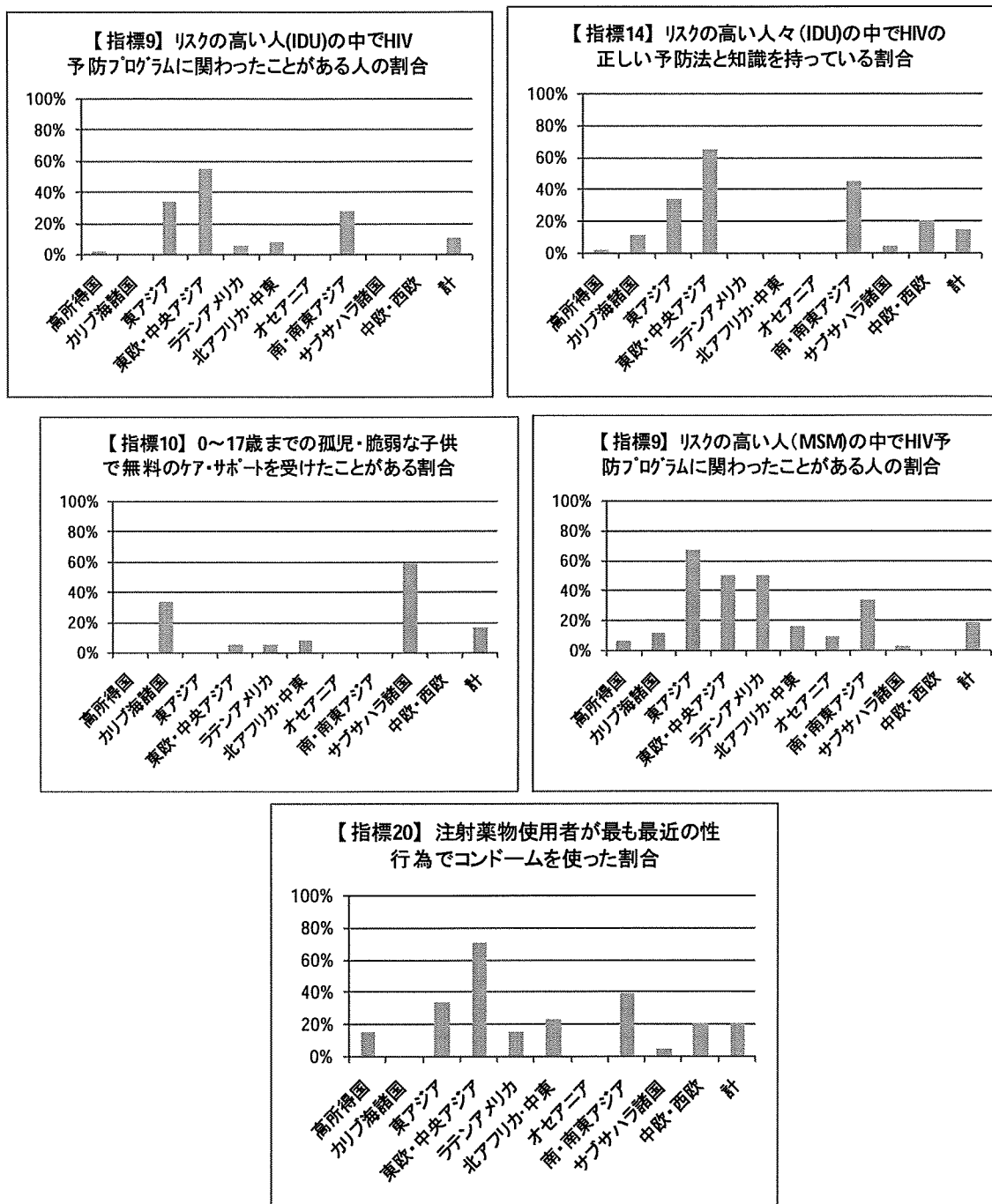


図4 比較的回答率が高かった(55%以上の回答を得ている)指標と回答率の地域別分布



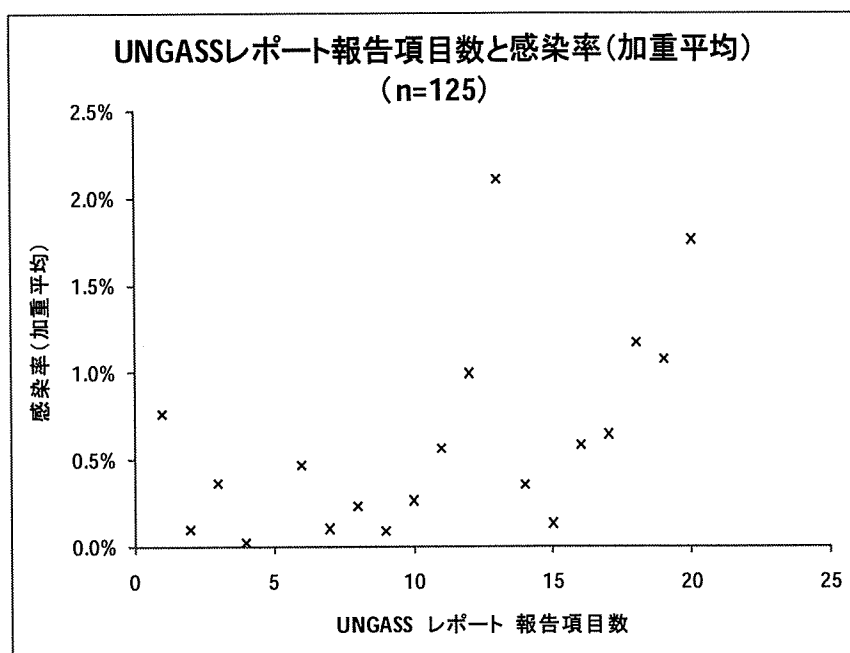
指標	項目	サブグループ	高所得国	カリブ海諸国	東アジア	東欧・中央アジア	ラテンアメリカ	北アフリカ・中東	オセアニア	南・南東アジア	サブサハラ諸国	中欧・西欧	計
3	全献血中でHIVスクリーニングされた割合(%)		22	9	2	14	17	6	4	10	40	3	127
			45.8%	100.0%	66.7%	70.0%	85.0%	46.2%	33.3%	55.6%	90.9%	60.0%	66.1%
4	進行したHIV感染者(小児も)でARVを受けた割合		9	7	2	16	17	4	5	12	43	4	119
			18.8%	77.8%	66.7%	80.0%	85.0%	30.8%	41.7%	66.7%	97.7%	80.0%	62.0%
5	HIV陽性妊婦が母子感染軽減のためにARVを受けた割合		10	7	2	17	14	4	2	13	41	2	112
			20.8%	77.8%	66.7%	85.0%	70.0%	30.8%	16.7%	72.2%	93.2%	40.0%	58.3%

図5 特に回答率が低かった（20%未満の回答）指標と回答率の地域分布



指標	項目	サブグループ	高所得国	カリブ海諸国	東アジア	東欧・中央アジア	ラテンアメリカ	北アフリカ・中東	オセアニア	南・南東アジア	サブサハラ諸国	中欧・西欧	計
9	リスクの高い人の中でHIV予防プログラムに関わったことがある人の割合	IDU	1	0	1	11	1	1	0	5	0	0	20
			2.1%	0.0%	33.3%	55.0%	5.0%	7.7%	0.0%	27.8%	0.0%	0.0%	10.4%
14	リスクの高い人々の中でHIVの正しい性的感染予防方法とHIV感染の正しい知識を持っている割合	IDU	1	1	1	13	0	0	0	8	2	1	27
			2.1%	11.1%	33.3%	65.0%	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	4.5%	20.0%	14.1%
10	0～17歳までの孤児・脆弱な子供で無料のケア・サポートを受けたことがある割合	MSM	0	3	0	1	1	1	0	0	26	0	32
			0.0%	33.3%	0.0%	5.0%	5.0%	7.7%	0.0%	0.0%	59.1%	0.0%	16.7%
9	リスクの高い人の中でHIV予防プログラムに関わったことがある人々の割合	MSM	3	1	2	10	10	2	1	6	1	0	36
			6.3%	11.1%	66.7%	50.0%	50.0%	15.4%	8.3%	33.3%	2.3%	0.0%	18.8%
20	注射薬物使用者が最も最近の性行為でコンドームを使った割合	MSM	7	0	1	14	3	3	0	7	2	1	38
			14.6%	0.0%	33.3%	70.0%	15.0%	23.1%	0.0%	38.9%	4.5%	20.0%	19.8%

図 6



報告項目数	感染率(加重平均)	国数
1	0.76%	2
2	0.10%	2
3	0.36%	3
4	0.02%	1
6	0.47%	7
7	0.10%	6
8	0.23%	2
9	0.09%	6
10	0.27%	8
11	0.56%	9
12	0.99%	13
13	2.10%	10
14	0.35%	13
15	0.13%	12
16	0.58%	8
17	0.64%	12
18	1.16%	4
19	1.07%	6
20	1.76%	1
合計	0.52%	125

表1 「HIV/AIDSに関するコミットメント宣言」実施のための中核的指標

指標	データ収集頻度	データ収集方法
各国における取組み及び活動		
支出		
1. カテゴリー別、財源別に示した国内及び国際的な AIDS 関連支出	国の要求や資金調達状況に応じて暦年単位又は会計年度単位で	国別 AIDS 関連種出評価 財源の流れ
政策設定・実施状況		
2. 国内複合政策指数 (National Composite Policy Index) (対象領域: 予防、治療・ケア・支援、人権、市民社会の関与、性別、職場プログラム、スティグマと差別、モニタリングと評価)	隔年	書類審査及び主要な情報提供者への面接
国のプログラム(血液の安全性、抗レトロウイルス療法の適用範囲、母子感染予防、結核と HIV の同時管理治療、HIV 検査、予防プログラム、孤児及び弱い立場に置かれた子供たちへのサービス、教育)		
3. 精度が保証された方法によって HIV スクリーニング検査が行われた献血血液単位の割合	毎年	プログラムモニタリング/特別調査
4. 抗レトロウイルス療法を受けている進行 HIV 感染成人患者及び小児患者の割合*	毎年	プログラムモニタリング及び推定値算出
5. 母子感染リスクを抑えるために抗レトロウイルス薬を投与した HIV 感染妊婦の割合	毎年	プログラムモニタリング及び推定値算出
6. 結核と HIV の治療を受けた HIV 陽性新規結核症例推定数の割合	毎年	プログラムモニタリング
7. 過去 12 ヶ月間に HIV 検査を受け、検査結果を知っている 15~49 歳の男女の割合	4~5 年毎に	一般住民調査
8. 高リスク集団の中で、過去 12 ヶ月間に HIV 検査を受け、検査結果を知っている者の割合	隔年	行動調査
9. 高リスク集団の中で HIV 予防プログラムを受けている者の割合	隔年	行動調査
10. 子供の養育のために外部から無償で基本的支援を受けている世帯で暮らす、0~17 歳の孤児及び弱い立場に置かれた子供たちの割合	隔年	一般住民調査
11. 過去 1 年間(学年度)にライフスキル中心の HIV 教育を実施した学校の割合	隔年	学校調査

知識及び行動

12. 10～14歳の孤児及び孤児でない小児の現在の就学状況*	4～5年毎に	一般住民調査
13. HIVの性感染を予防する方法を正しく指摘し、HIV感染に関する重大な誤解を識別することのできる15～24歳の若者の割合*	4～5年毎に	一般住民調査
14. 高リスク集団の中で、HIVの性感染を予防する方法を正しく指摘し、HIV感染に関する重大な誤解を識別することのできる人々の割合	隔年	行動調査
15. 15歳未満で性交渉を経験した15～24歳の若者男女の割合	4～5年毎に	一般住民調査
16. 過去12ヵ月間に複数の相手と性交渉をもった15～49歳の男女の割合	4～5年毎に	一般住民調査
17. 過去12ヵ月間に複数の相手と性交渉をもち、直近の性交渉の際にコンドームを使用した15～49歳の男女の割合*	4～5年毎に	一般住民調査
18. 直近の顧客相手の性交渉の際にコンドームを使用したと答えた男女の性産業従事者の割合	隔年	行動調査
19. 直近の男性相手のアナルセックスの際にコンドームを使用したと答えた男性の割合	隔年	行動調査
20. 直近の性行為の際にコンドームを使用したと答えた注射薬物使用者の割合	隔年	特別調査
21. 直近の注射薬物使用時に滅菌済みの器具を使用したと答えた注射薬物使用者の割合	隔年	特別調査

効果

22. HIVに感染している15～24歳の若年男女の割合*	毎年	HIVセンチネルサーベイランス及び一般住民調査
23. 高リスク集団におけるHIV感染者の割合	毎年	HIVセンチネルサーベイランス
24. 抗レトロウイルス療法開始後12ヵ月間治療を継続していることがわかっているHIV感染成人患者及び小児患者の割合	隔年	プログラムモニタリング
25. HIVに感染した母親から生まれた感染乳児の割合	毎年	治療プロトコル及び有効性研究

* ミレニアム開発目標の指標

表2 UNGASS レポート各指標への回答状況

指標番号	指標内容	高所得国	カリブ海諸国	東アジア	東欧・中央アジア	ラテンアメリカ	北アフリカ・中東	オセアニア	南・南東アジア	サブサハラ諸国	中欧・西欧	計	
1	国内と国際的なカテゴリー別AIDS対策の支出と財源	7	6	2	14	15	6	2	10	38	3	103	
		14.6%	66.7%	66.7%	70.0%	75.0%	46.2%	16.7%	55.6%	86.4%	60.0%	53.6%	
3	全献血中でHIVスクリーニングされた割合(%)	22	9	2	14	17	6	4	10	40	3	127	
		45.8%	100.0%	66.7%	70.0%	85.0%	46.2%	33.3%	55.6%	90.9%	60.0%	66.1%	
4	進行したHIV感染者(小児も)でARVを受けた割合	9	7	2	16	17	4	5	12	43	4	119	
		18.8%	77.8%	66.7%	80.0%	85.0%	30.8%	41.7%	66.7%	97.7%	80.0%	62.0%	
5	HIV陽性妊婦が母子感染軽減のためにARVを受けた割合	10	7	2	17	14	4	2	13	41	2	112	
		20.8%	77.8%	66.7%	85.0%	70.0%	30.8%	16.7%	72.2%	93.2%	40.0%	58.3%	
6	HIV感染者で結核にかかった人のうち結核とHIVの両方の治療を受けている割合	6	9	1	13	14	5	2	8	23	2	83	
		12.5%	100.0%	33.3%	65.0%	70.0%	38.5%	16.7%	44.4%	52.3%	40.0%	43.2%	
7	15~49歳の男女で過去1年間にHIVテストを受けてその結果を知っている割合	11	8	1	8	13	3	2	8	41	3	98	
		22.9%	88.9%	33.3%	40.0%	65.0%	23.1%	16.7%	44.4%	93.2%	60.0%	51.0%	
8	リスクの高い人々の中で過去1年間にHIVテストを受けその結果を知っている割合	SEX Worker	5	4	2	14	10	3	1	12	27	2	80
			10.4%	44.4%	66.7%	70.0%	50.0%	23.1%	8.3%	66.7%	61.4%	40.0%	41.7%
		IDU	7	1	1	15	3	3	0	8	2	2	42
			14.6%	11.1%	33.3%	75.0%	15.0%	23.1%	0.0%	44.4%	4.5%	40.0%	21.9%
		MSM	12	2	2	13	14	3	1	10	6	3	66
	25.0%	22.2%	66.7%	65.0%	70.0%	23.1%	8.3%	55.6%	13.6%	60.0%	34.4%		
9	リスクの高い人の中でHIV予防プログラムに関わったことがある人々の割合	SEX Worker	1	2	2	10	7	3	1	8	15	0	49
			2.1%	22.2%	66.7%	50.0%	35.0%	23.1%	8.3%	44.4%	34.1%	0.0%	25.5%
		IDU	1	0	1	11	1	1	0	5	0	0	20
			2.1%	0.0%	33.3%	55.0%	5.0%	7.7%	0.0%	27.8%	0.0%	0.0%	10.4%
MSM	3	1	2	10	10	2	1	6	1	0	36		
	6.3%	11.1%	66.7%	50.0%	50.0%	15.4%	8.3%	33.3%	2.3%	0.0%	18.8%		
10	0~17歳までの孤児や脆弱な子供で無料の子供たちをケアするサポートを受けたことがある割合	0	3	0	1	1	1	0	0	26	0	32	
		0.0%	33.3%	0.0%	5.0%	5.0%	7.7%	0.0%	0.0%	59.1%	0.0%	16.7%	
11	学校の最終学年で日常生活に基づくHIV教育を実施した学校の割合	5	7	0	10	5	1	1	6	26	1	62	
		10.4%	77.8%	0.0%	50.0%	25.0%	7.7%	8.3%	33.3%	59.1%	20.0%	32.3%	
12	10~14歳までの子供が学校へ行っている割合(孤児と孤児以外の2通り)	0	4	0	1	6	1	1	4	35	0	52	
		0.0%	44.4%	0.0%	5.0%	30.0%	7.7%	8.3%	22.2%	79.5%	0.0%	27.1%	
13	15~24歳の男女でHIVの正しい性的感染予防法とHIV感染の正しい知識を持っている割合	6	8	2	13	12	3	2	7	34	2	89	
		12.5%	88.9%	66.7%	65.0%	60.0%	23.1%	16.7%	38.9%	77.3%	40.0%	46.4%	
14	リスクの高い人々の中でHIVの正しい性的感染予防方法とHIV感染の正しい知識を持っている割合	SEX Worker	3	3	2	12	7	0	1	10	15	1	54
			6.3%	33.3%	66.7%	60.0%	35.0%	0.0%	8.3%	55.6%	34.1%	20.0%	28.1%
		IDU	1	1	1	13	0	0	0	8	2	1	27
			2.1%	11.1%	33.3%	65.0%	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	4.5%	20.0%	14.1%
MSM	3	2	2	11	9	0	1	8	2	1	39		
	6.3%	22.2%	66.7%	55.0%	45.0%	0.0%	8.3%	44.4%	4.5%	20.0%	20.3%		
15	15~24歳の男女で15歳までに性行為をしたことがある割合	11	8	1	14	15	3	4	8	38	2	104	
		22.9%	88.9%	33.3%	70.0%	75.0%	23.1%	33.3%	44.4%	86.4%	40.0%	54.2%	
16	15~49歳の男女で過去1年間に一人以上の人と性行為がある割合	11	8	1	9	12	3	3	6	38	2	93	
		22.9%	88.9%	33.3%	45.0%	60.0%	23.1%	25.0%	33.3%	86.4%	40.0%	48.4%	
17	15~49歳の男女で過去1年間に一人以上の人と性行為をした際、最後の性行為でコンドームを使用した割合	9	8	1	9	11	3	3	7	37	1	89	
		18.8%	88.9%	33.3%	45.0%	55.0%	23.1%	25.0%	38.9%	84.1%	20.0%	46.4%	
18	男女のセックスワーカーが最も最近のクライアントに対してコンドームを使用した割合	3	4	2	14	11	3	1	12	8	0	58	
		6.3%	44.4%	66.7%	70.0%	55.0%	23.1%	8.3%	66.7%	18.2%	0.0%	30.2%	
19	男性が男性のパートナーに対しアナルセックスをした最も最近にコンドームを使った割合	10	4	2	12	13	2	2	10	8	2	65	
		20.8%	44.4%	66.7%	60.0%	65.0%	15.4%	16.7%	55.6%	18.2%	40.0%	33.9%	
20	注射薬物使用者が最も最近の性行為でコンドームを使った割合	7	0	1	14	3	3	0	7	2	1	38	
		14.6%	0.0%	33.3%	70.0%	15.0%	23.1%	0.0%	38.9%	4.5%	20.0%	19.8%	
21	注射薬物使用者が最も最近に注射した際、滅菌された注射用具を用いた割合	6	0	1	15	3	3	0	8	2	1	39	
		12.5%	0.0%	33.3%	75.0%	15.0%	23.1%	0.0%	44.4%	4.5%	20.0%	20.3%	
24	ARVを開始後1年時点で生存している人の割合	10	8	2	13	15	5	4	11	37	2	107	
		20.8%	88.9%	66.7%	65.0%	75.0%	38.5%	33.3%	61.1%	84.1%	40.0%	55.7%	
いずれか一つ以上に回答している割合		24	9	2	17	19	7	6	14	44	5	147	
国連加盟国		48	9	3	20	20	13	12	18	44	5	192	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表3 文献検索結果

指標番号	指標	データ年	文献記載内容	論題	著者	文献名・ページ	分類	備考
1	カテゴリー別、財源別に示した国内及び国際的なAIDS関連支出	2007	HIV/AIDSのみを対象とした援助額は1.4億ドル	Estimation of Japanese international financial assistance for HIV/AIDS control for 2003-2007: Difficulties and limitations of data collection	Koichiro Mori, Kiyoshi Yonemoto, Teiji Takei, Jose Izazola-Licea, Benjamin Gobet	Health Policy, Volume 94, Issue 1, January 2010, Pages 54-60	原著	
		2007	都道府県別の10万人あたりエイズ予算120.2万円(SD63.0万円40.1万円~353.4万円)	自治体のエイズ関連施策のモニタリングと評価に関する研究	笠島茂	自治体のエイズ関連施策のモニタリングと評価に関する研究(主任代表者 木原正博)平成20年度256-273	研究報告書	
3	精度が保証された方法によってHIVスクリーニング検査が行われた献血液単位の割合	2008	検査実施件数 5077238件中107件でHIV抗体・核酸増幅検査陽性	平成20(2008)年エイズ発生動向年報 参考 4献血液件数及びHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数	厚生労働省エイズ動向委員会		報告書	
4	抗レトロウイルス療法を受けている進行HIV感染成人患者及び小児患者の割合							
5	母子感染リスクを抑えるために抗レトロウイルス薬を投与したHIV感染妊婦の割合		「近年はほぼ全例にHAARTが行われ」	本邦におけるHIV感染妊娠の動向と母子感染予防対策の現状	清水泰樹, 喜多恒和, 吉野直人, 箕浦茂樹, 松田秀雄, 高野政志, 宮崎泰人, 外川正生, 塚原優己, 稲葉憲之, 和田裕	日本エイズ学会誌(1344-9478)10巻4号 Page419(2008.11)	会議録	「周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する周学的研究」
		1998-2008.3累計	選択的帝王切開81%、緊急帝王切開55%、経膈分娩12%に抗ウイルス薬投与	Mother and Children PLWHA女性の周産期医療と子育てをめぐる諸問題が国のHIV感染妊娠の現況と母子感染リスク集団の背景	喜多恒和, 吉野直人, 外川正生, 塚原優己, 稲葉憲之, 和田裕一	日本エイズ学会誌(1344-9478)10巻4号 Page344(2008.11)	シンポジウム	「周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する周学的研究」
			分娩212例中134例(63.2%)に対して抗ウイルス薬投与	【産婦人科感染症アップデート】妊婦HIVスクリーニングの実感と問題点	稲葉憲之, 大島教子, 西川正能, 和田裕一, 喜多恒和, 外川正生, 塚原優己, 戸谷良造	産婦人科の世界(0386-9873)57巻12号 Page1103-1114(2005.12)	総説	平成15年度 HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する基礎的・臨床的研究、平成16年度 HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究
6	結核とHIVの治療を受けたHIV陽性新規結核症例推定数の割合							
7	過去12か月間にHIV検査を受け、検査結果を知っている15~49歳の男女の割合	2007	2007年に保健所・公設検査・相談所で142205件の検査が報告された(のべ数である)検査結果のうち確認検査の結果は、保健所では95%(264/279)、他公設検査・検査所では92%(180/195)	性感染症の検査体制の現状と課題 -保健所等におけるHIV検査体制を中心に-	中瀬克己, 佐野貴子, 今井光信	日本臨床 2009 57(1) 30-36	総説	HIV検査機会の拡大と質的充実に関する研究(今井ら)18年度(49-77,2007)、19年度報告書(62-88,2008)
8	高リスク集団の中で、過去12か月間にHIV検査を受け、検査結果を知っている者の割合	2005	2005年に東北地域のゲイ・コミュニティを対象とした予備調査では、過去1年間のHIV抗体検査受検率が13.8%と他地域に比べて低い。	東北地域における男性同性間のHIV感染対策—ゲイ・ボランティアグループ「やろっこ」の活動展開	太田貴、伊藤俊広、金子典代、小浜耕治	日本エイズ学会誌 2009;11(4):430	会議録	

指標番号	指標	データ年	文献記載内容	論題	著者	文献名・ページ	分類	備考
9	高リスク集団の中でHIV予防プログラムを受けている者の割合	2004	大阪地区のMSMS向けHIV/STI予防啓発プロジェクト2004年クラブイベント参加者への質問紙調査でMSMと判定された607名中、コミュニティペーパーの受取経験が52%、啓発コンドームの受取経験が61%	大阪地域におけるMSM向けHIV/STI予防啓発アウトリーチ	木村博和, 市川誠一, 辻宏幸, 鬼塚哲郎	日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)64回Page956(2006.08)	会議録	
10	子供の養育のために外部から無償で基本的支援を受けている世帯で暮らす、0~17歳の孤児及び弱い立場に置かれた子供たちの割合							
11	過去1年間(学年度)にライフスキル中心のHIV教育を実施した学校の割合							
12	10~14歳の孤児及び孤児でない小児の現在の就学状況							
13	HIVの性感染を予防する方法を正しく指摘し、HIV感染に関する重大な誤解を識別することができる15~24歳の若者の割合		平成17年 神奈川県の中予116校(62.4%)、高校63校(67.9%)への調査で、全学校で予防教育を実施	エイズ対策における保健師の役割・予防教育とHIV検査のあり方について	彦根倫子、岩室紳也	日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)65回Page919(2006.10)	会議録	
		2002-2007	1大学における学生への講義前アンケート(2005年度314名、2006年度467名、2007年度484名)、3大学における大学祭におけるアンケート(2002年度284名)で、「STDにかかっている」とHIVに感染しやすい」へは約70%が不正解	大学生のHIVを含むSTDの知識調査報告 -看護誌の行う大学生への健康教育について-	松山まり子、内野佛司、品川由佳、加藤恭博、高田昇	日本エイズ学会誌(1344-9478)9巻4号Page475(2007.11)	会議録	
		2001	某短期大学看護学科1回生75名を対象としたアンケート調査の正答率HIVはセックスのとき正しくコンドームを使えば感染を予防できる79.5%	看護学科新入学生におけるHIV/AIDSに関する基礎知識調査結果の検討	森松 伸一	看護教育(医学書院)43(10), 888-891/, (学術雑誌)	実践報告	
14	高リスク集団の中で、HIVの性感染を予防する方法を正しく指摘し、HIV感染に関する重大な誤解を識別することができる人々の割合	1997-1999	「健康に見えてもHIVに感染していることがある」86.2~100 「食器からHIVに感染する」83.7-90.2%(啓発イベント参加者) 蚊や虫にさされると感染する 65.0~81.5% コンドーム使用は性感染症の予防になる 83.1~98.6%	MSM(Men who have sex with men)におけるHIV感染予防介入・プロジェクトMASH大阪について	市川誠一	日本エイズ学会誌(1344-9478)5巻3号 Page174-181(2003.08)	総説	
15	15歳未満で性交渉を経験した15~24歳の若者男女の割合		中3における性経験率は6~7%	思春期の性行動と性感染症	木原雅子, シャラザード・M・ラヴァリ, 加藤秀子	総合臨床(0371-1900)57巻11号Page2735-2737(2008.11)	解説	木原雅子他、若者のHIV/STD関連知識・行動・予防介入に関する研究 2004年 HIV社会疫学班研究報告書
		2003	西日本の某地方都市で2003年に行った全数調査では中学3年生の性経験率は男子6%、女子7%	思春期の性行動と性感染症	木原雅子, シャラザード・M・ラバリ	小児科(0037-4121)47巻9号Page1320-1326(2006.08)	解説	木原雅子他、若者のHIV/STD関連知識・行動・予防介入に関する研究 2004年 HIV感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学班研究報告書

指標番号	指標	データ年	文献記載内容	論題	著者	文献名・ページ	分類	備考
16	過去12か月間に複数の相手と性交渉をもった15～49歳の男女の割合	1999	18～24歳(男性48.1 女性35.8) 25～34歳(男性27.9 女性9.6) 35～44歳(男性19.0 女性3.4) 45～54歳(男性16.8 女性2.4)	ネットワーク化する若者の性行動とHIV/STD感染リスク	木原正博	Minophagen Medical Review(0388-4783)47巻2号 Page101-103(2002.03)	特別講演	木原正博他、平成11年度厚生省HIV感染症の疫学研究班報告書 2000
17	過去12か月間に複数の相手と性交渉をもち、直近の性交渉の際にコンドームを使用した15～49歳の男女の割合*							
18	直近の顧客相手の性交渉の際にコンドームを使用したと答えた男女の性産業従事者の割合	2007	性産業業利用経験ある男性で名簿登録者1400人中へ郵送 725名から回答 直近の性風俗で使用ソープランド 80.5% 店舗型ファッションヘルス 44.7% 派遣型ファッションヘルス デリヘル 61.5% ピンクサロン26.3% 派遣型デートクラブ ホテル60.0%	日本の性風俗施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究	東優子	東優子ら 性風俗施設・産業を利用する男性に関する研究 p6-22	研究報告書	
19	直近の男性相手のアナルセックスの際にコンドームを使用したと答えた男性の割合	2006-2007	東京都南新宿検査相談室をH18.7～H19.4に利用したMSM1361名を対象としたアンケート(質問紙)「コンドームをほとんど使う/毎回使う」は陰性群1280名45%、陽性群25%」	MSMにおける検査行動とHIV感染の関係性に関する研究	今井敏幸、小島弘敏、大野理恵、嶋貴子、今井光信	日本エイズ学会誌(1344-9478)9巻4号 Page419(2007.11)	会議録	HIV検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究班
		2005	2005年6月のHIV検査会での質問紙調査408名中396名から回答、ゲイまたはバイセクシャルと辞任しており、男性と性行為の経験があると回答した272名を対象とした分析。過去6か月のアナルセックス経験者の最後のセックス時のコンドーム使用は、特定相手とのコンドーム使用、26/57(45.6%)、その場限りの相手 58/72(80.6%)	東海地域のゲイ・バイセクシュアル男性のHIV抗体検査の受検動機と感染予防行動	金子典代、内海真、市川誠一	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)30巻4号 Page37-43(2007.09)	原著	
19	直近の男性相手のアナルセックスの際にコンドームを使用したと答えた男性の割合	2005	2005年の東京でのゲイ向けクラブイベントの質問紙調査データ。MSM934名について啓発資料認知群と非認知群で最後のアナルセックス時のコンドーム使用が73%、62%	東京におけるMSM向け予防啓発プロジェクトの評価に関する研究	木村博和、佐藤未光、張由紀夫、市川誠一	日本エイズ学会誌(1344-9478)8巻4号 Page405(2006.11)	会議録	
		2005	2005年のゲイ向けクラブイベントの質問紙調査データ。MSM回答者のうち、薬物(ラッシュ420名、ゴメオ77人、その他いわゆる脱法ドラッグ46名)使用者のコンドーム常用率がそれぞれ42%、55%、58%	東京地区のMSMにおけるセックス時併用薬剤とHIV/STI予防に関する研究	木村博和、佐藤未光、張由紀夫、市川誠一	日本エイズ学会誌(1344-9478)9巻4号 Page432(2007.11)	会議録	
20	直近の性行為の際にコンドームを使用したと答えた注射薬物使用者の割合	2008	ここ1年で注射あり 46件風俗ありでコンドーム常に使用は50%。風俗以外の不特定多数でコンドーム常には 72.8%。国内で外国人との性接触 海外で85.6%	薬物乱用・依存者のHIV感染と行動のモニタリングに関する研究	和田清	HIV感染症の動向と影響及び政策のモニタリングに関する研究(主任代表者 木原)	研究報告書	
21	直近の注射薬物使用時に滅菌済みの器具を使用したと答えた注射薬物使用者の割合	2008	精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査 167人 医療機関受診 ここ1年で注射あり 46件 針の共有 16/45	薬物乱用・依存者のHIV感染と行動のモニタリングに関する研究	和田清	HIV感染症の動向と影響及び政策のモニタリングに関する研究(主任代表者 木原正博) 平成20年度. P232-250	研究報告書	
22	HIVに感染している15～24歳の若年男女の割合							

指標番号	指標	データ年	文献記載内容	論題	著者	文献名・ページ	分類	備考
23	高リスク集団におけるHIV感染者の割合	2001-2007累計	2001年から2007年に名古屋で行われたLesbian & Gayを対象とする無料HIV抗体検査会の結果 延2671名が受検、感染者が69名(2.6%)であった	MSMを対象にした名古屋における無料HIV抗体検査会	内海真、市川誠一、菊池恵美子、濱口元洋	日本エイズ学会誌(1344-9478)9巻4号 Page420(2007.11)	会議録	
		2005	MSM対象のインターネットによる質問票調査、回答数5731名。自己申告によるHIV陽性率5.3%	インターネットによるMSM対象の行動疫学研究REACH Online 2005(第1報) HIV抗体検査受検行動とHIV・梅毒・B型肝炎の既往歴	日高庸晴、市川誠一、木村博和、鎌倉光宏	日本エイズ学会誌(1344-9478)8巻4号 Page404(2006.11)	会議録	
		2004	2004年の名古屋での無料HIV抗体検査会において受検者439名中、12名(2.7%)がHIV陽性であった。	同性愛者を対象にした名古屋での無料HIV抗体検査会	内海真(高山厚生病院)、濱口元洋、菊池恵美子、河村昌伸、五島真理為、市川誠一	日本エイズ学会誌(1344-9478)6巻4号 Page494(2004.11)	会議録	
24	抗レトロウイルス療法開始後12か月間治療を継続していることがわかっているHIV感染成人患者及び小児患者の割合							
25	HIVに感染した母親から生まれた感染乳児の割合	2005	2005年に報告された妊婦のHIV陽性例は40例で、母子感染は1件	妊娠とHIV感染	佐野貴子、山田里佳、谷口晴記、近藤真規子、今井光信、塚原優己	臨床検査 2009 vol53 (4):467-471	総説	平成18年厚生労働科学研究「周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する周学的研究」班平成18年報告書 2007、46-79
		2008	2008年3月までのHIV感染妊婦例595例を分析、母子感染率を選択的帝王切開0.5%、緊急帝王切開6%、経産分娩21%報告	本邦におけるHIV感染妊婦の動向と母子感染予防対策の現状	清水泰樹、喜多恒和、宮崎泰人、綾部琢哉、松田秀雄、岩田みさ子、箕浦茂樹、佐久本薫、塚原優己、稲葉憲之、和田裕一	日本産科婦人科学会雑誌 61(2)610(S-386)	会議録	
		1999-2007	全国の小児科標榜の病院へのアンケートから累計308例のHIV感染女性からの出生のうち、44例にMTCTを認めた。	わが国におけるHIV母子感染の現状 -病院小児科への全国アンケート調査から-	尾崎由和、外川正生、葛西健郎、大場悟、國方徹也、浅田和豊、山中純子、吉野直人、榎本てる子、金田次弘、矢永由里子、辻麻理子、戸谷良造、喜多恒和、塚原優己、稲葉憲之、和田裕一	日本エイズ学会誌(1344-9478)10巻4号 Page420(2008.11)	会議録	平成19年度厚生労働科学研究「周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する周学的研究」による
		1999-2005	全国の小児科施設へのアンケート、2005年までに把握できたHIV感染妊婦から出生した児は現在270例で、うち41例に母子感染を認めた。	我が国におけるHIV母子感染の現状 全国小児科施設に対する調査成績から	國方徹也、井村総一、葛西健郎、尾崎由和、稲葉憲之	日本周産期・新生児医学雑誌 (1348-964X)42巻4号 Page871-876(2006.12)	原著論文	平成17年度厚生労働科学研究「周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する周学的研究」による
1987-2005	帝王切開179例中2例(1.3%)、経産分娩20例中7例(25.0%)	【産婦人科感染症アップデート】妊婦HIVスクリーニングの実態と問題点	稲葉憲之、大島教子、西川正能、和田裕一、喜多恒和、外川正生、塚原優己、戸谷良造	産婦人科の世界 (0386-9873)57巻12号 Page1103-1114(2005.12)	総説	平成15年度 HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する基礎的・臨床的研究、平成16年度 HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究		

(別添資料)

Three Ones (三つの統一) 基本原則

「各国の HIV/AIDS 対策の調整」

各国当局とそのパートナーのための指針

はじめに

地球規模の緊急課題である HIV/AIDS への世界的な対策においては、国際社会における協調を最大限に高めることで、限られた新たな資源を最も効果的に活用する必要があり、あらゆる当事者がそれぞれのプログラムを通して感染国の優先的なニーズに対応し、取り組みの重複を避けるべく努力しなければならない。

2003 年 9 月にケニアのナイロビで開かれたアフリカ地域エイズ・性感染症国際会議 (ICASA) では、資金調達方法とパートナーシップの多様性の向上に伴うさまざまな機会と課題、この多様性の役割と関係の明確化、および地域的な行動と有効な政策環境の必要性を考慮しつつ、国レベルの HIV/AIDS 対策を調整するために全関係者が適用すべき以下の三つの原則が特定された。これらの原則は、全関係者の共同行動に向けた柱として、また各国が HIV/AIDS 対策における役割と関係を最適化するための基準として活用できる。

基本原則 I

全パートナーの活動を調整するための基礎となる、合意された一つの HIV/AIDS 対策の枠組み
この枠組みは、資源配分の優先順位と説明責任の明確化、全パートナーによる定期的な検討・協議体制の確立、調整に対する外部支援機関の協力、HIV/AIDS 対策と貧困削減・開発対策および関連のパートナーシップ協定との連携、サービスの提供における官民のパートナーシップを推進する体制の構築を通して、パートナーシップと資金調達方法を調整し、国内 AIDS 調整機関の機能を高めるための基礎となる。

基本原則 II

多部門にわたる広範な役割を果たす一つの国内 AIDS 調整機関

法的地位を有するこの機関は、自主裁量の範囲の設定、政府当局に対する報告事項の指定、政策の実施・パートナーの参加・プログラム／開発の成果に関する説明責任の範囲の明確化を任務とし、民主的な監視機能と多様なパートナーシップ・資金調達方法の「統括機能」を果たすと共に、各国の管理機能の強化、国内における HIV/AIDS パートナーシップ協定の実現、国際的・国内的環境の構築を目指すものである。

基本原則 III

合意された一つの包括的な国内モニタリング・評価システムの枠組み

ほとんどの国では全国的な対策をモニタリング及び評価する有効な共通システムが存在せず、品質保証、国による管理、政策の最適化が妨げられている。そのため、世界レベルでの連携、国内 HIV/AIDS 対策の枠組みと連動した中核的な国内システム、データの品質に関する合意された投資戦略、国の能力向上への投資を通して、国内モニタリング・評価システムを強化する必要がある。

出典：UNAIDS. “Three Ones” key principles, Coordination of National Responses to HIV/AIDS Guiding principles for national authorities and their partners. Conference Paper, Washington Consultation 25.04.04 より

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
分担研究報告書

地域におけるHIV/AIDS教育、若年者への意識・教育効果に関する研究

分担研究者 鈴木仁一（神奈川県小田原保健福祉事務所長）

研究要旨

HIV/AIDS教育・若年者の意識/教育効果に関する実態把握のために、UNGASS REPORTのCore Indicatorsとして掲げられている3項目について、厚生労働科学研究成果データベース〔平成9-19年度〕と先進国の2008年のUNGASS reportから、日本の状況と先進国の調査方法を調べたところ、今後日本において、それぞれのCore Indicatorを入手するためにどのような調査をしたらよいか示唆を受けた。

- ・ 「11 1年以内に日常生活に基づくHIV教育を実施した学校の割合」について、調査対象者、調査対象地域、教育内容をガイドラインで求められている指標に合っているかどうか十分に吟味しておく必要がある。
- ・ 「13 15-24歳の男女でHIVの正しい性的感染予防法とHIV感染の正しい知識を持っている割合」について、全国的に住民基本台帳から層化2段無作為抽出法にて抽出し、個別訪問・面前自記式による調査で、質問項目にガイドラインで指摘された5つの質問項目をいれ、調査方法を検討するのが望ましい。
- ・ 「15 15-24歳の男女で15歳までに性行為をしたことがある割合」について、今後の調査にあたり、高校生のみを対象とするのではなく、15-24歳の対象者が必ず入るようにpopulation-based surveyを実施する調査方法を検討するのが望ましい。

A. 研究目的

HIV/AIDS教育・若年者の意識/教育効果に関する実態把握のために、UNGASS REPORT¹⁾のCore Indicatorsとして掲げられている下記の3項目について日本の状況を調査し、正確に把握する必要がある。しかしながら、この3項目を収集するためだけの調査は行われていない。Core Indicatorsのため効果的、効率的に、データを収集できるように、既存の文献調査を実施し、日本においてどのような調査をしたらよいか、どのような調査なら実行可能なのか検討する。

- ・ 11 1年以内に日常生活に基づくHIV教育を実施した学校の割合
(Percentage of schools that provided life skills-based HIV

education in the last academic year.)

- 13 15-24歳の男女でHIVの正しい性的感染予防法とHIV感染の正しい知識を持っている割合 (Percentage of young women and men aged 15-24 who both correctly identify ways of preventing the sexual transmission of HIV and who reject major misconceptions about HIV transmission.)
- 15 15-24歳の男女で15歳までに性行為をしたことがある割合 (Percentage of young women and men aged 15-24 who have had sexual intercourse before the age of 15.)

(注：11, 13及び15は、ガイドラインのCore Indicatorsを示す番号である。)

B. 研究方法

1 平成9年(1997年)から、現在(平成20年12月)までに厚生労働科学研究成果データベース〔平成9-19年度〕²⁾に掲載された厚生科学研究費補助金あるいは厚生労働科学研究費補助金を受けたエイズ対策研究報告書のうち、Core Indicators11, 13, 15に、関連したと考えられる研究事項をより、とりまとめた。

2 UNGASS reportの先進国のcountry reportでCore Indicators 11、13、15の対応方法をどのように記載しているか、2008年にUNAIDSに提出された報告書をもとに内容を整理した。³⁾

C. 研究結果

1 厚生労働科学研究成果データベース〔平成9-19年度〕²⁾

(1) 「11 1年以内に日常生活に基づくHIV教育を実施した学校の割合」
(Percentage of schools that provided life skills-based HIV education in the last academic year)

「11 学校でHIV教育を実施した学校の割合」は、ガイドラインでは、Life Skills-Based Education (LSBE)に基づくHIV教育としており、エイズ感染予防教育を含め、健康教育、人権や社会問題、暴力予防、発展のための平和構築や教育を含んでいるが、今回は学校における性教育を含めたエイズ感染予防教育について調査している報告書について調べた。

○木原正博 他：HIV感染症の疫学研究1999年度厚生科学研究費補助金報告書⁴⁾

- 1999年4月から6月にかけて、若者のHIV/STDに関する知識レベル・性意識・リスク行動の程度、セクシャルネットワークの実態を把握し、その集団に適した効果的な予防対策に資する情報を得ることを目的に全国の国立大学生を対象に無記名自記式アンケート調査を実施した。(全国国立大学生

Sexual Health Study) 参加数96校のうち30校。回収数113,645人、(男性7,749人(56.9%)、女性5,866人(43.1%) 回収率57.5%)

- ・ 避妊、STD, HIVに関する教育の経験について調べてみると、中学、高校でこれらの教育を受けたことが、一度も受けたことがないと答えた学生が、HIVでは8.1% 避妊では14.0%、STDに関しては22.4%も存在し、わが国の性教育の不備・遅れが示唆されるとしている。

○真下真澄：学校教育と医療機関・医療行政・関係諸機関との連携に関する研究 1997年度厚生科学研究費補助金報告書⁵⁾

- ・ 「エイズ評価・検討委員会」を医療機関・医療行政・医療関係者と教育関係者を参加のもと組織して、保健所との連携による広報誌「AIDS」を児童生徒23,000人へ配布と 10,000所帯へ回覧した活動など報告している。

○木原正博 他： HIV感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究 2001年度 厚生科学研究費補助金報告書⁶⁾

- ・ 文部科学省の指導要領がだされているが、実際の性教育は各校の判断にまわされていて、わが国の性教育の現状はほとんど把握されていない可能性が示唆されたので、養護教諭(地方B県1,043校のうち参加校657校回収率63.0%)を対象として、小学校・中学校・高等学校における性教育実態調査を実施した。小学校4-6年では9割以上の学校が性教育を行っており、小学校3年生以下でも9割近い学校で性教育が行われていた。それに対し、中学校では性教育実施率が約8割に減少した。高校では、学年により差があり、高2では約9割とほとんどの高校が性教育を行っているが、高3では実施校が約半数であった。
- ・ 県下A高校86高校に依頼して、31高校から回答があつて、4,935人から回答を得た。(男性45.8%、女性54.2%) エイズ、性病予防の情報源は、保健体育の教師が約85%となっている。家庭科の教師が、28.7%、養護教諭が22.1%である。

○熊本悦明 他：“性感染症としてのHIV感染”；予防のための市民啓発を、各種情報メディアを通して具体的に実施実行する研究計画 2001年度 厚生科学研究費補助金報告書⁷⁾

- ・ 小学・中学・高校における保健体育の教科書におけるSTD/HIV感染に関する記述を検討している。小学校3-5年用：5種、同5-6年用：5種、中学校用：3種、高校用4種及び文部科学“学校における性教育の考え方・進め方”につき、性感染症/HIV感染症/エイズに関する記述及び予防意識啓発度について

検討した。学校教育ではHIVは未だに性感染症問題としてではなく、人権問題として取り上げられている傾向が強い。そのため、一応学生生徒は知識としてHIVを知っているもの（福岡県性教育研究会での調査によれば、高校での調査では8割強エイズについて知識をもっていた。）の、性感染症としての認識は低く、まして従来性の感染症との関連性に関する知識は極めて低く、予防意識が生まれていないとしている。

○木原正博 他： HIV感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究 2003年度 厚生労働科学研究費補助金報告書¹⁰⁾

- ・ エイズ教育が一般には若者の現実を十分に把握し得ていない教師によって担われているという問題がある。そのために、エイズ教育は若者の現実に即した“予防”教育となり得ていない。また外部からのエイズ予防教育を導入することに門戸を閉ざす学校も少なくない。未だに若者の間には、STDやHIV検査に関する知識が普及しないのであると指摘している。
- ・ A県C市の全中学校を対象として、HIV/STD関連知識、性意識、性行動の実態を明らかにした。7,089名が参加した。（男子3,550名、女子3,529名、不明10名）（回収率約100%）これまで学校で習った性情報として、中学1年から3年までの全体でみると、「妊娠/出産」と「エイズ」はかなり教えられているが、「一般の性感染症」はそれよりも低く、「避妊」「中絶」「男性用コンドーム使用方法」など具体的な予防方法に関する教育はまだ十分とはいえないことが示された。
- ・ A県高校に対するHIV予防介入研究（WYSH高校生プロジェクト）を実施しているが、介入を行う事前調査として高校生に対してHIV/STD関連知識・意識・行動に関する調査を行っている。A県91高校のうち、2年間継続参加高校は、24校（2002年：男子1,378人、女子2,550人）（2003年：男子1,437人、女子2,264人）の調査結果を報告している。「これまでに学校で習ったこと（複数回答）」では、性交について2002年で男子67.4%、女子73.0%、2003年で男子72.5%、女子76.5%であり、妊娠・出産について2002年で男子85.04%、女子94.2%、2003年で男子83.8%、女子93.9%である。また、エイズのこと2002年で男子84.7%、女子87.1%、2003年で男子83.9%、女子90.2%、男性用コンドームの正しい使い方は、2002年で男子39.5%、女子31.1%、2003年で男子42.0%、女子37.0%であった。

○木原 雅子他： 若年者等におけるHIV感染症の性感染予防に関する学際的研究 2006年度 厚生労働科学研究費補助金報告書¹¹⁾

- ・ 小学生の性教育に関する希望調査を、B府全域から割り当て法で選ばれた33

校の小学生7,079名を対象に性教育に対する希望等についての質問紙調査を実施した。その中で、小学校高学年児童（小5-6）に「エイズ」についての授業を受けたことがあるかどうかの質問に対して、5年生では男子26%、女子27%、6年生では男子81%、女子81%が受けたと回答していた。

(2) 「13-24歳の男女でHIVの正しい性的感染予防法とHIV感染の正しい知識を持っている割合」 (Percentage of young women and men aged 15-24 who both correctly identify ways of preventing the sexual transmission of HIV and who reject major misconceptions about HIV transmission.)

- ・ UNAIDSのガイドラインにおいては、5つの質問（①HIVの感染のリスクは、一人のHIVを感染していない相手とセックスをすることより減少できるか？②毎回セックスするとき、コンドームを使用することによりHIVの感染のリスクを減らすことができるか？③健康にみえる人もHIVをもっている可能性はあるか？④蚊にかまれることによりHIVが感染する可能性はあるか？⑤感染者と食事を共有化することで感染することがあるか？）で、対象者の知識を確認するように説明されているので、5つの質問に近い内容で質問してある調査を列挙した。また、年齢については、UNAIDSのガイドラインでは15-24歳としているが、年齢の限定はきびしくしなかった。

○木原正博 他：HIV感染症の疫学研究1999年度厚生科学研究費補助金報告書⁴⁾

- ・ 1999年6-7月に、男女全国5000人を住民基本台帳から層化2段無作為抽出法にて抽出し個別訪問・面前自記式による調査を実施し、18歳から59歳までの人から、71.2% (n=3,562) の回収率を得た。(HIV&SEX in JAPAN Survey) わが国HIV/STD関連知識、性行動、性意識について性別・年齢別の分析を行った。
- ・ 日常生活でのHIV感染に関する知識は普及しているが、STDの種類や感染の仕方、HIVとSTDの相互作用、HIV検査のタイミングや保健所での検査などに関する情報の欠落が大きい。Indicatorsとして似ている質問の正解率は下記のとおりだった。
- ✓ 「HIV感染者を刺した蚊や虫に刺されると、HIVに感染する可能性がある。」正解率 33.8%、非正解率61.3%、無回答率5.0%である。
- ✓ 「健康に見えても、HIVに感染していることがある。」正解率 78.1%、非正解率16.4%、無回答率5.6%である。
- ✓ 「HIV感染者が使用した食器を共用すると、HIVに感染する可能性がある。」正解率 74.3%、非正解率20.8%、無回答率4.5%である。

○五島 真理為他： エイズ対策における関係機関の連携による予防対策の効果に関する研究 2005年度 厚生労働科学研究費補助金報告書⁸⁾

- ・ 1998年7月から2005年2月までに、保健所、教育機関ならびにNPO法人HIVと人権・情報センターとの連携の下に実施されたYYSP (Young for Young Sharing Program) の取り組みに参加した中学、高等学校、専門学校、大学などの若者を対象として実施した。実施前後の回答が得られた11,711名の回答者を対象とした。中学校(1,243名)、高等学校(9,904名)、大学・短大(231名)、外国人学校(12名)である。
- ・ 事前の調査として、HIV感染とAIDS発症の違いの理解している者の割合36.5%を記述してある。感染する可能性のある体液はどれか(血液、精液、母乳、膣分泌液)、感染する可能性がある行為はどれか(せき・くしゃみ、握手、性行為、ペット、注射の回し打ち、母子感染、プールや銭湯の利用、ダニを通しての感染)の質問がある。

○阿曾佳郎他： 性の健康相談室を通じたの市民のSTD/HIV感染調査とHIV感染予防に関する研究 2003年度 厚生労働科学研究費補助金報告書⁹⁾

- ・ (財)性の健康医学財団において、Eメールによる“性の健康相談”で6ヶ月間に2,017件の相談を受け、約5ヶ月間で“性の健康相談室”に44人の相談者が来訪した。この44人に調査票を記入してもらった。男性23人、女性21人である。24歳以下は12人で、25歳以上は、32人であった。不明者が7人いた。性感染症の知識もたずねているが、報告書では結果は明らかにされていない。

○木原正博 他： HIV感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究 2003年度 厚生労働科学研究費補助金報告書¹⁰⁾

- ・ A県高校に対するHIV予防介入研究(WYSH高校生プロジェクト)を実施しているが、介入を行う事前調査として高校生に対してHIV/STD関連知識・意識・行動に関する調査を行っている。AIDS/STD関連知識の正解率は、若者の間でエイズ/性感染症が増加していることは、高校2年生の7-9割が知っていた。また、エイズの感染経路などの基礎知識も7-8割の生徒が正解であったが、エイズ検査に関する質問や一般の性感染症に関する知識の正解率は3-4割と低く、自分自身の感染を知る方法やより身近な性感染症の知識が十分でないことが示された。具体には、「HIVは食器からうつる。」の正解率は、2002年で男子70.0%、女子78.0%、2003年で男子65.7%、女子79.3%であった。「STDは必ず有症状か」の正解率は、2002年で男子31.3%、女子36.1%、